

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索



「国保なんでも電話相談会」で相談を受ける相談員

国保料 窓口負担 生活困窮 社保協など9団体で国保電話相談会開催

9月18日に東京社保協、自由法曹団、東京支部、東京土建、東京民医連、東商連、東京自治労連、都生連、東京地評、東京保険医協会の共催で「無料・国保なんでも電話相談会」を開催しました。当日は、区国保課の職員、弁護士、ケースワーカー、社会保険労務士、

「国保払うための借金」「窓口負担配入院費など」

守る会などが相談員として対応しました。診療所や病院の窓口や地域に配布されたチラシをみて朝の10時開始とともに相談が寄せられました。85歳の母と同居の50代男性から「母の年金月17万円です生活している。国保料は借金して払っていましたが、支払いが滞りがち。生保申請で役所に行ったが『働け』と言われた」と切羽詰ったの相談がありました。「収入は生保基準以下なので生活保護を受給すれば医療費などの支援を受けられる。過去の保険料の支払いも相談できる」とアドバイスし、地域の守る会の人につなげ、生活保護を申請することにしました。また、79歳の母親の入院費用の相談には「高額療養費制度で限度額4万4千円以上は負担しなくていい」と答えると「これで87歳の父親は安心します」と相談した娘さんはほっとした様子でした。

東京社保協では、「国保加入者アンケート」結果について9月15日に都庁記者クラブで発表。特別区長会の事前説明を上回る世帯で保険料の負担増があり、特に多数世帯では過半数が引き上げになっている。また、収入が減った世帯では3世帯に1世帯以上が病气やけがをしても病院に行かなかつたり、検査や治療を中断するなど深刻な受診抑制の実態を告発しました。記者会見には竹崎会長、和泉弁護士、葛飾社保協の吉野さんと事務局から前沢事務局長、寺川事務局次長が出席しました。



葛飾区国保料引き下げで区議会請願

その他「保険料が高くて払えない。月の医療費が1万円にもなり通院できないときもある」などの深刻な相談もありました。

国保加入者アンケートに「収入が減ったのに負担増になった部分は区として減免すべきだ」と『住民のいのちを守るため安心して払える国保料へ』の請願を葛飾区議会に提出し、9月22日葛飾区議会保健福祉委員会で審議されました。

委員会では公文昭夫会長が意見陳述を行いました。公明・自民・民主の各委員からは「提案者の思いはよく分かる」「アンケート調査は大変だったろう」などの意見が出されましたが、国保の制度を維持していくためには、現行でいかなければならないとし、共産党以外の多数で不採択とされてしまいました。しかしアンケート結果に示された区民の状況を全く無視する態度はとれません。葛飾社保協としては引き続き、国保制度の改善をめざして取り組みをすすめていきます。(事務局長・吉野五郎)

第5期介護保険事業計画「中間報告」だされる
65歳以上の保険料が月額5,400円に

足立区

9月12日に足立区の「介護保険・障がい福祉専門部会」が開催され、第5期介護保険事業計画の中間報告が発表されました。中間報告の主な内容を見ると、介護予防・生活支援総合事業（以下・総合事業）については具体的な記載はなく、第5期の導入については触れていません。

（1000床ともユニット型）。老人保健施設は、平成25年に374床・26年に150床の合計524床増やす計画です。グールプホームは、6ユニット54床増やすことになっています。

今年6月30日、私は初めて「介護保険運営協議会」の傍聴をした。退職後、中国に渡り10年あまり、外国語大学で日本語を教えていたが、その間、介護保険や国保のことは考えなかった。中国での生活費は安く、生活の心配をほとんどせず過ごしていた。だが、日本に帰ってくるや年金生活の厳しさを知らされた。特に、市から送られてきた後期高齢者保険料と介護保険料の明細書を見てあまりの高額にびっくりした。（1260円の引き上げ）に悩む。今度の区が行う第5期介護保険事業計画は、7月26日に、介護保険料の据え置き、給付サービスの水準の低下をきたす総合事業の導入をしないことなどの趣旨で、区長宛に要請を行ないました。また、9月28日に、介護保険課長も参加して、「第5期介

当座のお金がなく受診できない…
第10回共立なんでも相談会



9月17日（土）の相談は14件、血圧測定は4件でした。中野駅北口通路で、コソタクトの割引券を多く派遣社員の青年が「相談会は何時までやっていますか」と相談会のチラシを配る仲間に声を掛けました。また、30代の女性は「会社に出勤したら席がなかった」と雇用問題をかかえていました。70代の女性の子息

の相談。フリーカメラマンで収入は不安定、国保料が払えず短期保険証です。「咳が止まらず眠れないが、お金がなくて受診できない」の相談に「まずは共立診療所を受診ください」と答えました。母親は「偶然通りかかっただけでしたが、今日は本当によかった、助かった」とうれしそうでした。

大震災被災者の生保、病気、初診料、マンション管理、離婚問題など様々な相談にこたえました。参加スタッフは弁護士、中野区議会議員、共立職員有志あわせて14人でした。（中野共立『なんでもそうだんニュース』より転載）

無知だった私が気づいたこと!

西東京市介護保険運営協議会を傍聴して

7月、8月と続けて傍聴し、協議会で介護保険制度の改善案を知り、多くの市民に知ってもらう必要を感じました。10月13日の協議会では改善の原案を作成し、来年度の保険料値上げ案を協議するということなので、多くの人の傍聴が必要だ。（西東京社保協・浅井哲夫）

（1000床ともユニット型）。老人保健施設は、平成25年に374床・26年に150床の合計524床増やす計画です。グールプホームは、6ユニット54床増やすことになっています。そのような事業をおこなうために、平成24年から26年の標準給付額が1293億円と地域支援事業39億円を加算して算定した、65歳以上の介護保険料基準額は月額5640円（1260円の引き上げ）に悩む。今度の区が行う第5期介護保険事業計画は、7月26日に、介護保険料の据え置き、給付サービスの水準の低下をきたす総合事業の導入をしないことなどの趣旨で、区長宛に要請を行ないました。また、9月28日に、介護保険課長も参加して、「第5期介

南相馬へ
「原発の即時中止」の署名を広げよう!
 事務局長 前沢淑子



9月24・25日、被災地のボランティアへ。一部30キロ避難地域を含む南相馬市の仮設住宅に、米や野菜、ジュースや衣類などの支援物資を配るのと「福島県に原発はいらない!」の署名活動が仕事だった。24日は、新地域ですぐめ塚の仮設住宅を訪問し、署名をお願いした。

第2原発で働いている男性は、「家は海の近くですべて流された。原発はない方がいいが、仕事がなくなる。このいなかで原発以外の仕事が見つかるのか?疑問である」また、5月に出産したばかりの若いお母さんは、何度も署名項目を読みながら首をかしげ「原発はない方がいいが、自然エネルギーギーへの転換で電力が賄えるとは思えない。やっぱり署名はできない」

涙をいっばいためて「最近津波や地震のことが頭から離れず薬を飲まないで眠れない」と語る女性も。震災から7カ月たとうとしているいま、復興への道が見えない、原発はなくしてほしいけど不安、との現実を目の当たりにした。署名活動を終え



て被災した海岸に行く。岸壁に花とペットボトルのお茶が備えてあった。津波に破壊されつくした町や海に浮かぶ流された車や打ち上げられた船を見る。

津波にさらわれたままの家の中のくつや仏壇、布団や食器などを見ると胸が痛む。翌日は、米や野菜を持って別の仮設住宅へ。

私が胸に下げた線量計



さよなら原発集會に6万人

9月19日の午後、明治公園で開催された「さよなら原発集會」には、全国から6万人が集まり

は、0・5マイクロシーベルトを表示。30キロ圏内の地域も含むこの地区の汚染度は高い。この地域の人口は、7万1千人から4万人に減った。小学校1年・4年の子どもたちとおばあちゃんや長崎に避難しているという夫婦は「先週会いに行つたがお金がかかって大変」と。また「東電の説明会があつたが、160ページの説明書など見る気がしない。高齢者は書けない。高年齢者は書けない。領収書がなかったら支払わない、というけれど親戚の家へのお札に領収書なんかもらえない」と署名に賛同し、怒りを語ってくれた。海水の入らなかつた田には黄金の稲穂が風に揺れている。この米はどうなるの?見えない汚染に米をつくる人たちの無念さを思った。福島の人たちと心ひとつに「原発の中止」を求める署名をいま、広げなければ!を痛感した。

「原発はいらない」との国民の声を響かせました。集會開始の1時間以上前から、最寄りの千駄ヶ谷駅のホームから会場までの長蛇の列ができ、一時、千駄ヶ谷駅では電車が動けない事態も。

呼びかけ人の一人、作家の大江健三郎さんは、「原発を推進する勢力に対抗するには集會やデモしかない。しっかりやっていますましよう」と訴えました。

【こんな引き上げ許せない!】

☆70代・2人世帯

23万8400円→28万7千円
(20.4%増)

☆70代・1人世帯

8万5千円→10万円 (17.6%増)

☆60代・3人世帯

9万4千円→11万3千円
(20.0%増)

65%の世帯で国保税引き上げ

市への苦情 1000件

「国保改悪に反対する日野市民の会」が調査

日野市は、今年度国保税の引き上げを行いました。引き上げの理由は「一般会計から国保会計への繰入額が27億円となり、今後4年間の推計で43億円の不足額が見込まれるため、不足額の半額を保険税率の引き上げで賄う」というものです。

引き上げの内訳は、所得割率が6%から7.2%の引き上げ、均等割6%の引き上げ、均等割6%の引き上げという内容です。所得割率・均等割ともに引き上げたため、多人数世帯はもちろん、収入が変わらな

また、4年間の累計赤字幅の減少をめざすということは、連続して引き上げすることも懸念されます。

「国保改悪に反対する日野市民の会」は、今回の国保税引き上げに対し、「国保加入者アンケート」調査を実施、「市民の会」会員が地域で国保加入者を訪問して、136人から回答を得ました。

「本当に負担が重い、年金は減り国保税は上がる。老後は不安ばかり」(60代男性)「病気で病院にかかった時に負担が重くならない

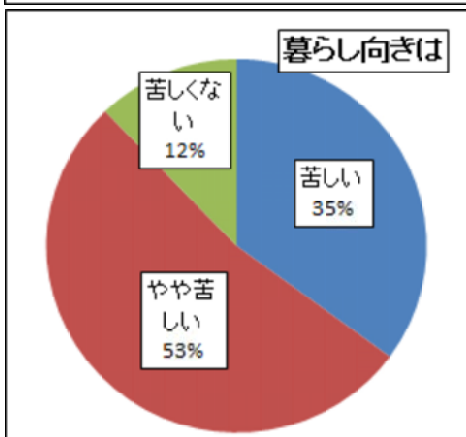
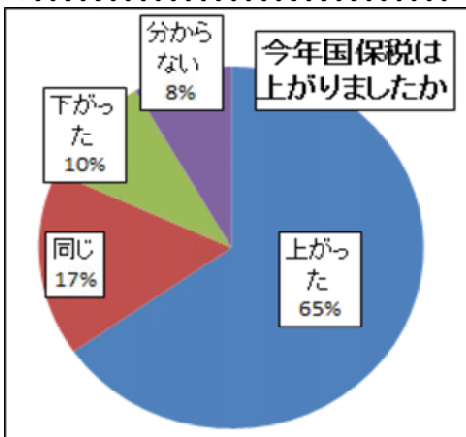
い世帯でも負担増になってしまいませんか。また、赤字幅の減少をめざすという事は、連続して引き上げすることも懸念されます。

「国保改悪に反対する日野市民の会」ではアンケート調査の結果、9月20日に「国保税の引き下げを求め」る要望書を馬場日野市長に提出しました。

引き続き市民生活を守るため、運動を広げていきま

ため、国保なのに、月々の負担が重く払えないのは本末転倒。市は何を考えているのか(60代女性)など、重い負担への怒りや不安の声が寄せられています。集約結果はグラフのように値上げになったのが65%の世帯にも上ります。暮らし向きは、「やや苦しい」も含まれると88%という結果です。

「市民の会」ではアンケート結果を受け、9月20日に「国保税の引き下げを求め」る要望書を馬場日野市長に提出しました。



【10月の主な日程】

- 5日(水) 15:00~第2回医療関係団体懇談会(主催:東京の保健衛生医療の充実を求める連絡会)
- 12日(水) 13:30 中央社保協院内集会(社保署名の推進へ向けて)
- 14日(金) 12:30~年金者一揆 於:明治公園
- 16日(日) 10:00 介護にはたらく仲間の全国学習交流集会 於:全労連会館
- 20日(木) 12:30 いのちまもる10・20国民集会 於:日比谷野外音楽堂
- 24日(月) 10:00 対都交渉 於:都庁第一庁舎1階ホール
- 28日(金) 障害者大フォーラム 於:日比谷野外音楽堂

第11回常任幹事会 日時 10月27日(木) 13:30~16:00
場所 東京労働会館 5階会議室

